

中部北太平洋におけるアカイカの餌魚類に関する研究 (要旨)

Fish Prey of the Neon Flying Squid, *Ommastrephes bartrami*,
in the Central North Pacific

有元 康司¹⁾・河村 章人¹⁾

Yasushi ARIMOTO¹⁾ and Akito KAWAMURA¹⁾

¹⁾ 三重大学生物資源学部

はじめに

北太平洋におけるアカイカは、亜熱帯域北部にあると推定されている産卵域から亜寒帯前線域にある索餌域へ北上回遊する。いか釣り漁業の場合、漁場選定には水温分布が重視される。しかし、中部北太平洋におけるアカイカ釣り漁業は索餌域に來遊するアカイカを漁獲対象とするため、その漁場形成において水温などの物理的環境要因の他に、餌生物を含めた生物的環境要因の関わりも考えられる。本報では中部北太平洋で釣獲されたアカイカの食性、釣り好漁場における餌魚類の特徴について報告する。

材料と方法

本研究で試料としたアカイカの胃袋は、1994年のアカイカ好漁場探索調査において、青森県水産試験所の調査船開運丸による釣り調査で採集した。調査期間は1994年6月25日から同年7月15日の21日間で、調査に先立って行われた緯度経度1度升目の中層水温観測の結果から、北へ張り出した舌状の暖水塊に合計21地点の釣り調査点を設置した(図1)。胃袋の採取は全調査点で行い、合計701個を採取した。胃袋を開いて取り出した胃内容物を実体顕微鏡下で分類群別に区分し、内容物中に残存する耳石から魚種の同定を試みた。

結果および考察

アカイカの胃内容物中には魚類、頭足類(イカ類)、甲殻類、翼足類の餌生物が認められ、魚類食個体は全調査個体の55%と最も高い割合を占め、次いでイカ類(37%)、甲殻類(5%)、翼足類(1%)の順であった。耳石から同定された魚類は4科12属19種にのぼった(表1)。ハダカイワシ科魚類の耳石は胃内容物中から最もよく見出され、出現頻度(魚類出現胃数に対する各餌魚種が出現した胃数の百分率)の高かった魚種はゴコウハダカ(31%)とトドハダカ(31%)、ダルマハダカ(20%)であった。この3種の出現域とCPUEとの対応を見ると、3種の内のいずれか2種の高出現域(出現頻度が30%以上)が重複する海域にCPUEの高かった海域が相当していた(図1と図2)。この事は、これら3種がアカイカ釣り好漁場を餌環境から指標する鍵種となる可能性を示唆している。

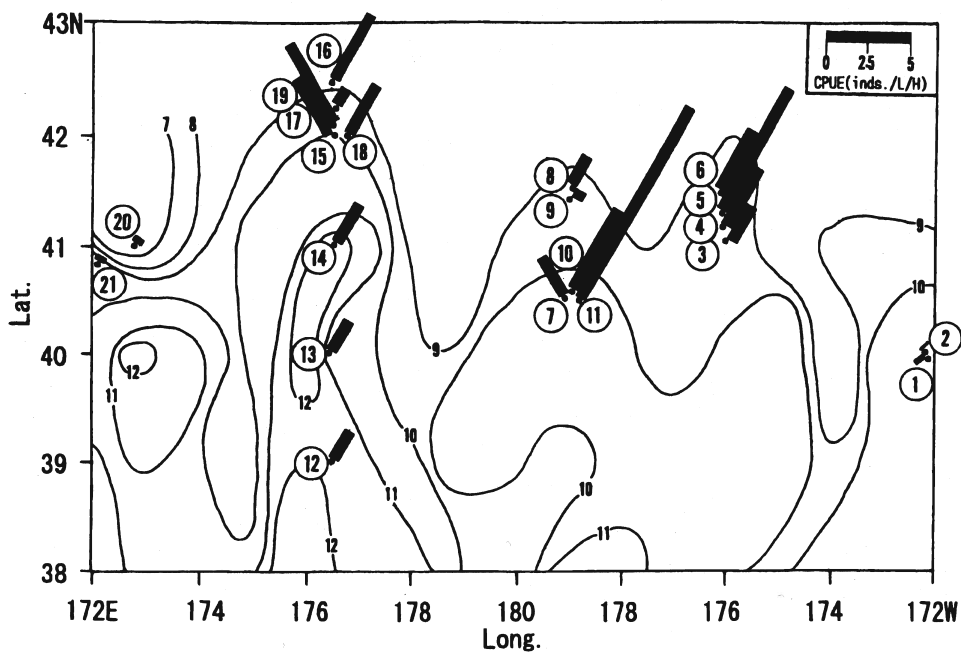


図1 水深200mの水温分布と調査点配置、及びCPUE分布

表1 耳石により同定された鯧魚種リスト

Family Myctophidae	Family Bathylagidae
<i>Ceratoscopelus warmingi</i>	<i>Bathylagus ochotensis</i>
<i>Diaphus gigas</i>	Family Gonostomatidae
<i>Diaphus kuroshio</i>	<i>Ichthyococcus elongatus</i>
<i>Diaphus theta</i>	Family Scomberesocidae
<i>Electrona rissoi</i>	<i>Cololabis saira</i>
<i>Lampanyctus regalis</i>	
<i>Lampanyctus simulator</i>	
<i>Notoscopelus japonicus</i>	
<i>Notoscopelus resplendens</i>	
<i>Protomyctophum crockeri</i>	
<i>Protomyctophum thompsoni</i>	
<i>Stenobrachius leucopsarus</i>	
<i>Stenobrachius nannochir</i>	
<i>Symbolophorus californiensis</i>	
<i>Symbolophorus evermanni</i>	
<i>Tarletonbeania taylori</i>	

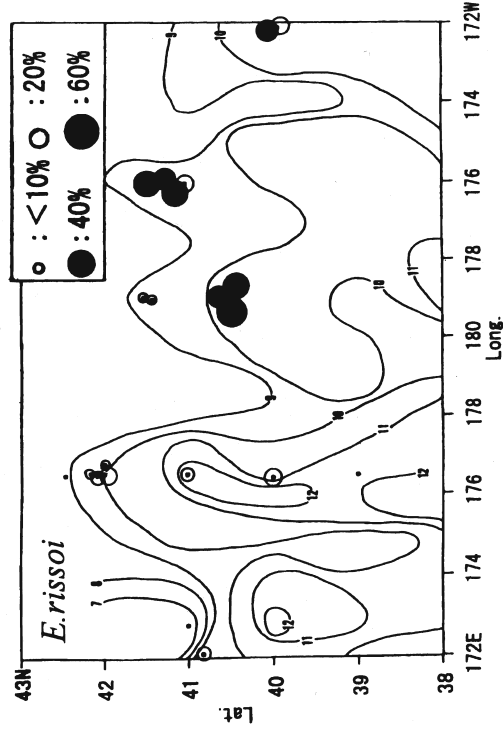
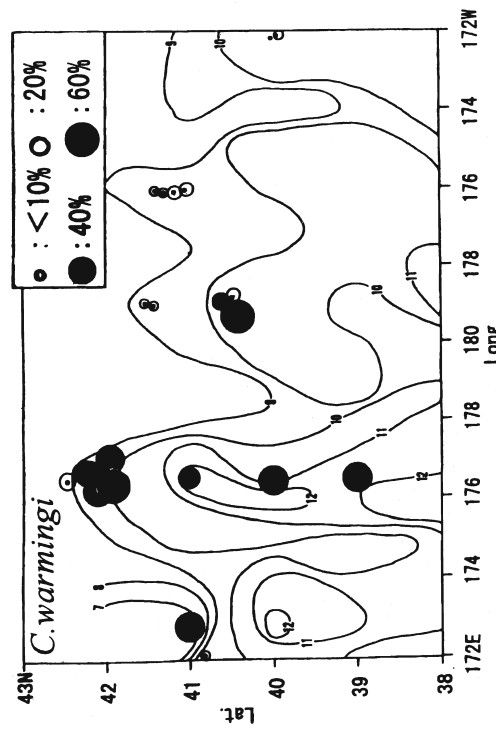
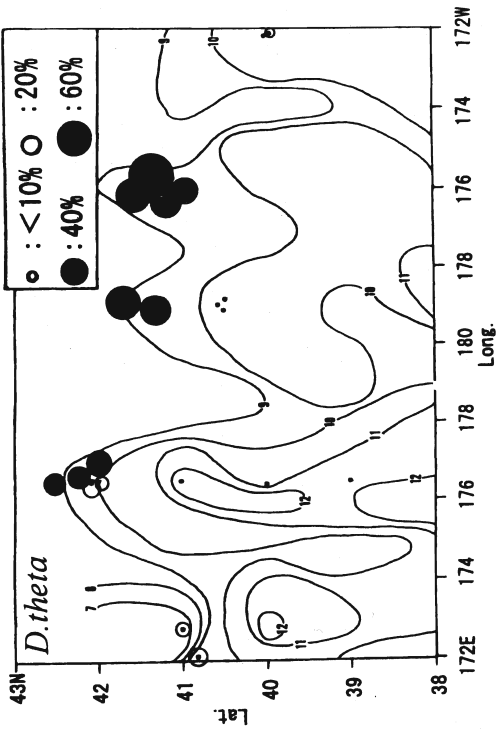


図2 ゴコウハダカ (*C.warmingi*), トドハダカ (*D.theta*), 及びダルマハダカ (*E.rissoi*) の各調査点における出現頻度